

# CLARTE

Vol.9

「クラルテ」はフランス語で「光り輝く」の意味。  
NTTクラリティは障がいのある人もない人も  
「光り輝く」社会をめざして障がい理解と  
障がい者雇用を推進しています。



NTTクラリティ  
シンボルアスリート紹介

ブラインドサッカー®  
田中 章仁



対談  
北澤 豪さん

ブラインドサッカー日本代表選手  
NTTクラリティ シンボルアスリート  
**田中 章仁**

対談

元サッカー日本代表  
(一社)日本障がい者サッカー連盟会長  
**北澤 豪さん**



## 障がい者スポーツ浸透のため ブラインドサッカーが 果たす役割は大。

2020年をきっかけに、  
ブラインドサッカーの魅力伝え、  
障がいがあってもこれまで以上に  
「共生」できる社会をつくりたい。  
同じ想いの二人が語り合いました。



んと似たプレースタイルの選手は  
いませんね。でも、激しくぶつかり  
合うことが多々見られるので、怪我  
はしないで欲しいですね。田中さん

が怪我をするとディフェンス力が落ちてしまうから。  
**田中**：スピードもパワーも、そして競技自体のレベルが  
どんどん上がっているの、どうしてもそういう場面  
が多くなります。

**北澤**：パスコースに入ってボールを取りに行ったり、  
フォワードより先にボールを触りに行ったり、そういう  
役割を担っている。ゴールされないためにはディフェン  
スの力で、相手のエースをどうつぶしていくかがカギに  
なる。今の日本代表チームはその役割を田中さん一人  
で担うことが多くなってきている。予選を突破するに  
は、まず田中さんのコンディションが大事になってくる  
と思います。

**田中**：守りはがっちり、コンディションはばっちり、  
でやっていきたいと思っています。

### 溢れる情熱と人間力で 日本代表へ

**田中**：少し緊張しています。

**北澤**：リラックスしていきましょう。

**田中**：まず、北澤さんがブラインドサッカー(以下「ブラサ  
カ」)に関わるきっかけは何だったのかを教えてください。

**北澤**：2002年に、元サッカー日  
本代表の釜本邦茂さんの姉の美  
佐子さんから声をかけられたの  
がきっかけです。徐々に視野が狭  
まるという疾患があった美佐子  
さんが、韓国でブラサカを視察  
し、日本でも普及させたいと動い  
たんです。実際に自分で体験して  
みたら「すごい世界がある!」と。



サッカーの経験者として好奇心と共感をおぼえ、また、  
ブラサカをやるうとする人たちの情熱を感じ、日本ブラ  
インドサッカー協会の設立をめざしました。田中さんが  
ブラサカに出会ったのはいつですか。

**田中**：2006年です。すでにNTTクラリティで働いてい  
ました。当時、体重が75kgにまでなっていました。

そんなとき、リハビリ仲間  
がブラサカに誘ってくれて、  
スポーツするならサッカー  
だ、と飛び込みました。入っ  
たチーム「たまハッサーズ」  
に日本代表の黒田智成選  
手がいて、07年の北京の  
予選で日本代表が負けて  
悔しがっていました。「それ

ほど夢中になるなんてすごい」と思い、自分も真剣に取り  
組もうと決めました。そして08年に代表選考合宿に  
参加して強化選手に選抜されました。

**北澤**：やり始めて2年とはすごい!

**田中**：サッカーを見ていた頃のイメージがあったので、  
ポジション取りとかはやりやすかったですね。

**北澤**：でも、サッカーのセンス、コミュニケーション力、想  
像力、人間力など、いろんな要素がないとこんなに短期  
間でできることではないですよ。そして情熱がないと。

**田中**：北澤さんから見た最近の私のプレーはどうで  
すか?

**北澤**：田中さんは感情的にならず、淡々とプレーするタ  
イプですね。自分とは違うな。そして、ここ数年の成長  
がすごい。目標設定をしてしっかりやってるし、努力の  
積み重ねを感じます。現在、自分が知る限りでは田中さ

### “ごちゃまぜ”チームが教える 「共生」

**北澤**：田中さんは、会社という組織の中で働きながら  
競技をしていることが自分の役割を見出していくのに  
役立っている感じがします。きちんとプレーするのと同  
じように仕事も甘えることがないんでしょうね。仕事を  
しながらの大変さを感じていますか?

**田中**：仕事をきちんとするのは当たり前のことだと思っ  
ています。シンボルアスリートとして遠征試合や代表練  
習では特別休暇を取得できるなどの環境を整えてもらっ  
ているので、社員としての責任はきちんと果たしたい。業  
務の一つに小・中学校でのパラスポーツ体験授業があっ  
て、ブラサカでの自分の経験を活かす機会もあります。



**北澤**：そういう社内のフィールドづくりはありがたいですね。障がい者と健常者がお互いに配慮しながらも協力し合うことですね。それが一番大事なことだと思います。

**田中**：今は学校や会社などで、障がい者がいる環境が少ない。一緒にいたことがないからどうしていいかわからないことがまだまだ多い。ブラサカと一緒に体験したり、自分たちのプレーを見たり、「音が鳴るボールを使えばサッカーができるんだ」ということを知ってもらって、そこから「障がい理解」につながればと思っています。

**北澤**：ブラサカは、目の見えない人と見える人が“ごちゃまぜ”で理解し合って、協力し合って、まさに障がいを越えた共生ができています。社会のシステムを変えていくには膨大な時間や労力がかかるけど、スポーツだとそれらを一気に超えていける。試合をすれば20分くらいでお互いを知るし、気づいていくし。だから今年は大きな変革期かなという気がしますね。

### ブラサカも会社も「コミュニケーション」があつてこそ

**北澤**：試合中、ガイドの声やボールの音は正確に聞こえるの？

**田中**：声はだいたい聞こえますが、遠ければ遠いほど音の精度は落ちてきますね。特にボールの音は横よりも縦の奥行きがわかりません。距離感が難しく、コーナー付近でボールが出そうなのか、まだ手前にあるのかがわかりにくいんです。そんなときは、周りの選手の動きと監督(センターガイド)の指示で動きます。

**北澤**：選手同士のコミュニケーションで、工夫していることはある？

**田中**：フォーメーションをイメージしながら伝え合っています。この人には言葉で、この人には背中に書いてあげたりとか。ときには実際の立ち位置から「このくらいの距離」と伝えたりして、相手によって変えています。でも、試合中はそんな余裕はないので、練習でみんな徹底して叩き込みます。

**北澤**：コミュニケーションが大事ですね。やり方は一つじゃない。その人ごとに伝え方を変えていくのが重要ですね。

**田中**：伝えたつもりになるのが一番良なくて、相手が理解していなければ伝えたことにはなりません。以前、社内で聴覚障がいのある人とコミュニケーションするときに、自分が伝えたことを相手が違って理解していたことがあったんです。自分の伝え方が悪かったと反省しました。だからブラサカでも、相手にわかるように伝えなければと常に思っています。

**北澤**：人間同士、コミュニケーションを通してお互いを高めていくことが重要です。ブラサカから教わるものがかなりありますね。

### 次世代につなげ、“てっぺん”をめざして

**北澤**：ところで、どんなトレーニングをやっているの？

**田中**：自分はずっとディフェンスでしたが、チームの戦略が変わってきて、今、求められているのは、ボールを奪ったらさらに運んで前につなげることなんです。そのための体力づくりや技術を磨くために、ここ3、4年はサッカースクールコーチに付いてもらってパーソナルトレーニングをやっています。ドリブルやキックの精度が上がっているのが実感できて、ますますやりたくなっています。週4でボールを蹴っていた時期もあったんですが、今は少し減らしています。日本代表チームの高田敏志

監督やコーチから「オーバートレーニングにならないように」と言われているので、トレーニングの一つとして休息も大事だと思ってきています。

**北澤**：オーバートレーニングは気をつけられないといけないね。コンディションを崩すし、怪我にもつながるから。そして記録を残すこと。こういう食事をしたから、こういうトレーニングをしたから、こういうパフォーマンスが出せた、というのを残していくのが大事。自分のことをよく理解して、大事なときにピークを合わせないと。

**田中**：今回、高田監督の声かけで専門的な知識がある超一流の方たちがスタッフとして参加してくれていま

す。障がい者サッカーの中でもブラサカはすごく恵まれています。この流れが続いていけばいいと思います。

**北澤**：障がい者サッカー7団体\*の代表として出場するという想いでいてくれるので、2020年を起点にしてどういうスタートを切れるか、大きな役割を担っているとします。それにしても結果が求められますよね。



**田中**：自分たちは結果を出すためにやってきて、やるからには“てっぺん”をめざさないといけないと思っています。

**北澤**：選手たちのサッカーへの向き合い方や姿勢を見ていると、拍手を送りたくなる闘い方をしてくれる。それが周りの気づきや行動につながるとしています。視覚障がいをはじめ、いろんな障がいに関心を持ってきて、たとえば、病気を治すために協力したいという人や支えたいという人たちがもっと増え

てくるのではないかな。それは競技の発展と同じくらい大事なことです。ブラサカが障がい者スポーツをはじめ多くの人に与える影響力は大きいと思います。

**田中**：自分たちが結果を出すことで、次世代の人たちにつながることを残せるとしています。私は、左右の視力を失ったときに引きこもったけれど、障がいがあっても絶望する必要はないんだと、障がいのある人やその家族に思ってもらえるような試合をしたい。少しでも自分たちが力になれるよう“てっぺん”をめざします!

### 北澤 豪さん (きたざわ つよし) 【プロフィール】

元サッカー日本代表、(一社)日本障がい者サッカー連盟会長/中学時代は読売サッカークラブ・ジュニアユースに所属。修徳高校卒業後、本田技研工業株式会社に入社。海外へのサッカー留学・日本代表選出を経て、読売クラブ(現・東京ヴェルディ)へ。日本代表として多数の国際試合で活躍。2003年現役引退。現在会長を務める(一社)日本障がい者サッカー連盟がHEROs OF THE YEAR 2019を受賞。

### 田中 章仁 (たなか あきひと) 【プロフィール】

NTTクラリティ株式会社 営業部所属、静岡県出身/3歳の時に網膜芽細胞腫で右目を摘出。左目の視力は明るさを判別できる程度。2004年にNTTクラリティ入社後、06年、ブラインドサッカーチーム「たまハッサーズ」に入る。08年、日本代表強化指定選手に選ばれ、フィールドプレーヤーとして活躍中。

### 田中 章仁 戦績

【日本代表】	2019年	IBSA アジア選手権/第3位
	2019年	IBSA World Grand Prix/第4位
	2014年	アジアパラ競技大会/準優勝
【クラブチーム】	2019年	ブラインドサッカークラブチーム選手権/優勝
	2017年	ブラインドサッカー日本選手権/優勝



\*ブラインドサッカー(視覚障がい)、アンプティサッカー(上肢または下肢の切断障がい)、CPサッカー(脳性麻痺)、ソーシャルフットボール(精神障がい)、知的障がい者サッカー、電動車椅子サッカー(重度障がい等)、ろう者(デフ)サッカー(聴覚障がい)の競技団体。

# シンボルアスリート 田中 章仁の1日

仲間や家族に支えられ、仕事もブラサカも、いつも全力で駆けています!



## 6:30 起床

着替えてストレッチ。



## 7:00 朝食～出勤準備～出勤

電車とバスを乗り継いで通勤。雨天時のバス停は長蛇の列。最後尾がわからず、並んでいる人の足に杖がぶつかったり。声をかけて助けてくれる人がいるとホッとします。



## 9:00 出社

始業の9:00までにコーヒーを飲んで、1日のスタートに備えるのがルーティン。

## 10:00～11:30 会議

グループメンバーとウェブアクセシビリティ診断作業の進捗状況などを確認し合います。



## 11:30～12:30 昼休み

グループメンバーと社員食堂へ。休暇の過ごし方など、話題はつきません。



## 12:30～ 業務

パソコン画面に向かい、画面上の文字を読み上げるソフトウェア「スクリーンリーダー」を使ってウェブアクセシビリティ診断等に関する作業の進捗をチェック。ときには、上司や同僚に相談も。



## 17:30 退社

## 19:00 帰宅～夕食～練習場へ

自宅から徒歩やときにはタクシーで練習場へ向かいます。

### パーソナルトレーニング

フォーメーション中心のチーム練習ではできない、ボールを蹴るなどの個人技を磨く時間。サッカースクールコーチの的確なアドバイスで汗を流します。

## 22:30 帰宅～洗濯～入浴

トレーニングウェアは、クラブチーム用と日本代表用があり、混ざってしまうと色で判断できないので、使ったものはその日に洗濯。全て自分で管理しています。トレーニングのない日は、妻とテレビを観たり、ストレッチをしながらうとうと。。。

## 00:30 就寝

いつでもどこでも眠れるタイプ。明日もベストコンディションで!

監督から田中選手へ



ブラインドサッカー日本代表 高田 敏志 監督  
サッカーセンスに優れ、知性のあるサッカーをする選手。仕事とサッカー選手の両立を貫く彼にはプライドと責任感があり、私の考えもよく理解してくれているので、安心して一緒に取り組みます。

仲間から田中選手へ



ブラインドサッカー日本代表 川村 怜 選手  
あきさんはとても話しやすい先輩。ポジショニングが非常に良く、必要なところにいつもいて、僕らのピンチやミスをカバーしたり、みんなのポジションの修正してくれます。チームに欠かせない存在です。

コーチから田中選手へ

クーバー・コーチング・サッカースクール八王子校  
パーソナルコーチ 大橋 郁也さん

あきさんは向上心の塊。当初の目的だった右足のキック力がついたら、今度は左足で蹴れるようになりたいと。ゴールを決めた!と聞くと本当に嬉しいです。技術も人間性も一緒に向上していきたいです。



## BLIND SOCCER

# パラ競技 ブラインドサッカー



## ボールの音とチームの声から生まれる迫力のプレー 華麗なドリブル、想像以上のスピード感

ブラインドサッカーは、視覚障がい者による5人制のサッカーです。

チームは、4人のフィールドプレイヤー (FP・視覚障がい者) とゴールキーパー (GK・晴眼者または弱視者) で構成され、FPは見え方の不公平さをなくするためのアイマスクと、危険防止のためのヘッドギアを装着します\*1。GKは自陣エリアにボールがあるとき守備のための情報をFPに声で伝えます。また、サイドフェンスの外側に立つ監督 (センターガイド) はピッチ中盤エリアにボールがあるとき声で指示を伝えます。さらに相手ゴールネットの裏にはガイド (コーラー) が立ち、攻撃エリアにボールがあるときゴールの位置と距離、角度、シュートのタイミングなどを声で伝えます\*2。

ボールは転がると「シャカシャカ」と音を発します。FPは、ボールの音や、GK、監督、ガイドの声を頼りにプレーします。FPがボールを持っている相手に向かって行く際には衝突を避けるために、「ボイ!」\*3と声を出して自分の存在を知らせなければなりません。「ボイ!」と言わずにボールに向かって行くとは反則となります。

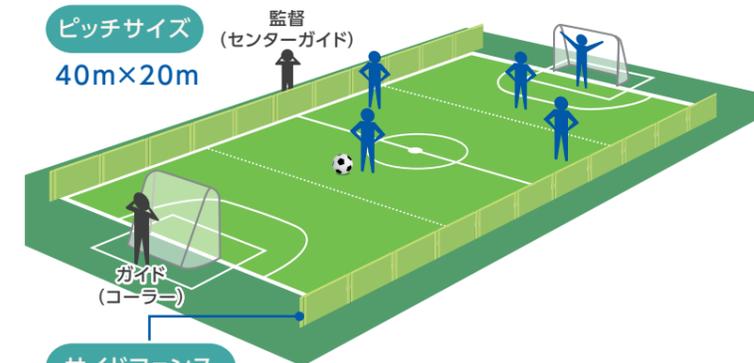
競技を左右するのはボールの音と、GK、監督、ガイドの声。プレー中は、観客が声や音を出すことはタブーです。しかし、ゴールが決まった瞬間の歓声は大歓迎。「静」と「動」の緊張と興奮が織りなす観戦スタイルはブラサカならではのものです。

### 試合時間

前後半20分ずつの計40分 (ハーフタイム10分間)

### ピッチサイズ

40m×20m



### サイドフェンス

両サイドラインに高さ約1mのサイドフェンス

ボールがサイドラインから出にくいようになっていて、FPはフェンスに触れて自分の位置を確認したり、ボールをトラップしてパスにつなげたり、フェンスを使った巧みな技を繰り広げます。

- \*1: 公平を期すために、目の上にアイパッチを貼り、アイマスクを装着。また、ヘッドギア装着の義務は国内のみで、国際ルールでは義務ではありません。なお、国内のクラブチームの試合では、視覚障がいのない人でもFPとしてプレーすることが認められています。
- \*2: たとえば「45度、3メートル、シュート」と声で伝えます。
- \*3: 「ボイ (Voy)」はスペイン語で、「行く」という意味です。

参考資料:  
日本ブラインドサッカー協会 (JBFA) <http://www.b-soccer.jp>  
日本障がい者サッカー連盟 (JIFF) <https://www.jiff.football>

## 教えて! 田中章仁選手とブラインドサッカー

田中章仁選手の背番号は7 守備も攻撃も担うポジション。

私が日本代表選手としてデビューしたのは、2009年のアジア選手権。当時は守備のポジションでしたが、2015年に高田敏志監督が就任され、守備をしながら攻撃に参加する「ボランチ」のような役割を与えられ、背番号が守備の4番から7番になりました。正確なロングパスやパスカットはもちろん、チャンスがあればシュートを決めて、監督の「ゲームをコントロールしてゴールをめざせ」という期待に応えたいと思っています。

ブラサカで  
“てっぺん”を  
めざす!



# NTTクラリティの紹介

■ ウェブアクセシビリティ診断・研修

■ ポータルサイト「ゆうゆうゆう」の運営

■ 障がい理解研修・心のバリアフリー研修

■ 障がい者採用支援コンサルティング

■ 手漉き紙による製品製造・販売

■ ヘルスキーパーによるオフィスマッサージ業務

■ NTTグループの業務を受託 など

事業所



## シンボルアスリート 田中章仁の業務紹介

### 1 ウェブサイトの アクセシビリティ診断・研修、 製品・サービスのUDコンサル\*

ウェブサイトのバリア改善策の提案(アクセシビリティ診断)及び様々な製品・サービスについて障がい当事者目線で改善案のコンサルティングを行うと共に営業活動や進捗管理を行っています。



ウェブサイトのアクセシビリティ診断など  
\*UD:ユニバーサルデザイン

### 2 研修講師

障がい当事者の立場から障がいへの理解を深めてもらうため、障がい理解研修・心のバリアフリー研修を行っており、聴覚障がいや肢体不自由等の社員と共に講師を務めています。



障がい者雇用に関する講演

### 3 パラスポーツ 体験授業の講師

パラスポーツを通じて、障がい当事者と触れ合う機会として、武蔵野近隣の小・中学校を中心にパラスポーツ体験授業を行っており、その講師を務めています。



パラスポーツ体験授業